

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
施設野菜專業經營 VII	4人	トマト促成		a	1. 接ぎ木セル苗購入による2次育苗 2. 防虫ネット使用 3. 交配はマルハナバチ利用 4. 共同選果施設利用 5. 炭酸ガス局所施用 6. 統合環境制御
		経営耕地面積	水田 80 畑	80	
経営目標	1 農業総収入	64,063 千円	4 1日当たり農業所得	13,005 円	
	2 農業経営費	53,815 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,576 時間	
	3 農業所得	10,248 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 有 割 合	取得価格	耐 用 年 数	年 間 償 却 額
					千円		千円
建物・施設	ビニールハウス (ハウス本体工事、二重カーテン(自動)、換気扇、灌水チューブ、電気工事込み)	8	低コスト耐候性ハウス:1000㎡	1	172,739	14	6,169
	育苗用ビニールハウス (ハウス本体工事、灌水チューブ込み)	2	AP単棟ハウス:1000㎡	1	12,135	10	607
	重油タンク	4	1.9kL	1	957	7	68
	防油堤	4		1	689	25	28
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,890	24	79
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	5,671	24	236
	計					194,081	
農機具	トラクター	1	20PS、140cm幅ロータリー装着	1	1,560	7	111
	管理機	1	6.2PS	1	278	7	20
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	184	7	13
	トラック	1	軽トラック	1	1,324	4	166
	加温機	8	100,000kcal	1	14,847	7	1,061
	循環扇	8	1セット/10a	1	1,819	7	130
	炭酸ガス発生装置	8		1	4,195	7	300
	自動換気装置	8	1000㎡用	1	7,886	7	563
	統合環境制御装置	8	モニタリング装置込み	1	11,772	7	841
計					43,865		3,204

3. 技術体系(トマト促成)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(2次育苗) 育苗準備	鉢上げ準備	8月	トラック	2	4	8	育苗用ハウス 育苗ポット 育苗床土 コンテナ	育苗ハウスは防虫対策をとる。
鉢上げ		8月下旬～ 9月上旬	トラック	2	5	10	接ぎ木セル苗 2,500本	
管理	かん水 ずらし	8月下旬～ 10月上旬		1	3	3		かん水は午前中に行う。 茎葉が重なり合わないようずらしを行う。
病虫害防除	薬剤散布		動力噴霧機	1	1	1	殺虫剤 殺菌剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 黄化葉巻病株は処分する。
(本ぼ) 病虫害防除	土壌消毒 ガス抜き	9月上旬	トラクター	2	3	6	土壌消毒剤 古ビニール	県病虫害防除基準に基づく適正処理。
耕うん・整地		9月上旬	トラクター	2	2	4	堆肥 2,000kg	完熟堆肥を施用し、深耕する。
施肥	基肥施用 耕耘	9月	トラクター	2	2	4	石灰質資材 120kg 10a当たり成分 N 30kg P ₂ O ₅ 20kg K ₂ O 25kg	施肥量は土壌分析を参考に する。 Nの分施割合 基肥 50:追肥 50
定植準備	うね立て	9月下旬～ 10月上旬	管理機	2	4	8		うね幅 1.8m
	かん水資材 設置	9月下旬～ 10月上旬		2	3	6	かん水チューブ	
	マルチ被覆	9月下旬～ 10月上旬		3	2	6	ポリマルチ	マルチは、低温期になるまで畦の肩部まで上げておく。
定植		10月上旬～中		3	7	21		株間45cm(2条) 10a当り 2,400株 第1段花房の1～2花開花した頃。
支柱立て		10月上旬～中		3	8	24	支柱 エスター線 誘引ひも	横張りは、8～10段

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
かん水		10月中～5月		1	27	27		着果後から徐々に量を多くする。 草勢に応じて少量多回数のかん水を行う。
管理	誘引	10月中～5月		3	45	135	誘引ひも 誘引クリップ	2段までは直立に誘引し、その後は斜めに誘引する。
	追肥	11月～4月		1	28	28		第1回目は第3花房開花時に行う。 以降は、草勢に応じて液肥で施用。
	腋芽かぎ 摘果 摘葉	10月中～5月		3	45	135	ハサミ	腋芽は早めに除去する。
ホルモン処理 マルハナバチ 交配	着果促進	10月中～4月下		2	6	12	ホルモン処理剤 マルハナバチ	マルハナバチ利用による交配。 下段花房(1～3段)はホルモン処理を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	10月中～5月	動力噴霧機 トラック	2	36	72		県病虫害防除基準による適正防除。 マルハナバチへの影響を考慮する。
統合環境制御		10月～5月	加温機 循環扇 自動換気装置 炭酸ガス発生装置 統合環境制御装置	1	24	24	A重油7,200L 灯油1,500L	厳寒期の保温対策の実施 最低温度 12℃以上確保 昼間温度 25～28℃ 自動換気装置、炭酸ガスは自動制御
収穫		12月～6月	トラック	3	106	318	ハサミ コンテナ 収穫台車	
出荷		12月～6月	トラック	1	26	26	コンテナ	共同選果施設の利用
後かたづけ	ほ場環境浄化	6月	トラック	2	10	20		収穫終了後にハウスの蒸し込みを行う。
計						898		

4. 品目の作付体系(▼鉢上げ、○ハウス被覆、△定植、□収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トマト促成									○	△		

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1) トマト促成栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
育苗作業(2次育苗)																									22	
定植準備																									28	
定植																									21	
支柱立て																									24	
かん水	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27	
栽培管理作業	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	270	
病害虫防除	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	78	
交配																									12	
追肥	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
温度管理等	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	
収穫・出荷	8	12	18	18	24	24	24	24	24	24	24	18	12												344	
後かたづけ																									20	
計	25	29	29	36	36	36	44	44	44	44	43	43	43	41	41	41	32	13	1	0	0	0	0	0	0	898
月計	83		108		132		129		123		46		0		27		37		97		53		63			

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
総労働時間	200	232	232	288	288	288	352	352	352	344	344	344	328	328	328	328	256	104	8	0	0	0	0	0	0	7184
うち家族労働	200	232	232	268	268	268	262	262	262	264	264	264	268	268	268	268	256	104	8	0	0	0	0	0	0	6304
うち雇用労働(臨時)				20	20	20	90	90	90	80	80	80	60	60	60	60	130									880